

令和7年12月24日（水）～12月28日（日）、国際理解コースの1年生が、ベトナム研修旅行を行ってきました。各日の日程と写真に、生徒の感想を添えてご紹介いたします。

1日目

・早朝の中部国際空港に集合し、一路ベトナムへ。ベトナムに入国後、すぐにベンタイン市場へ向かいました。生徒たちは初めて見るベトナムドン紙幣に戸惑いながらも、めいめい欲しいものを価格交渉しながら購入していました。この日は戦争証跡博物館を見学予定でしたが、季節外れのスコールの為、予定を変更し夕食会場である「VIET VILLAGE」へ。初めてのベトナム料理です。食事の後はスーパーへ行き、飲料等の必要なものを購入しました。



ベンタイン市場では日本では見た事ない感じの造りだったり、通路が狭くてどこに繋がってるか分からなくて迷ったりする時もあったけれど、自分たちだけで英語で会話をしたり値切り交渉してみたりして楽しむことができました。

異文化を体験できた。ベトナム料理は苦手だと感じてあまり食べることができなかったけど、それも文化の違いなのだと気がついた。他の国の料理にも興味が湧いた。



## 2日目

・朝は8時に出発してホーチミン経済大学へ。熱烈な歓迎を受け、ホールで本校生徒は名古屋市と中村高校についてのプレゼンや、縄跳びのパフォーマンス、紙飛行機飛ばし大会のイベント進行をしました。大学生の皆さんには、踊りや歌、ホーチミン市についてのプレゼンを見せていただきました。どれをとっても素晴らしい、有意義な時間でした。ホールでの交流後は、大学生の人たちと一緒にクリスマスのポスターを作りました。その後、大学の校舎の24階で一緒に食事をしてから、グループごとに構内の案内をしてもらいました。



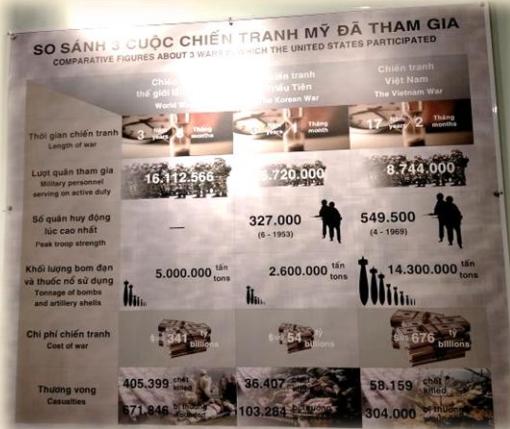
一緒にクリスマスのポスターを描いた際、何とか頑張ってコミュニケーションを取ってすごく良いイラストを完成させることができた。最後にはみんなで写真も取れたのでよかったです。

大学がどんな感じなのか実際に中に入つて見ることや、大学生と会話して交流して仲良くなることができ良かった。発表の時もしっかり話を聞いてくれて嬉しかった。



ベトナムだけじゃなく自国についても知るいい経験になったと思う。また、現地大学生とトランプをしたり、街の風景について話したりしたのもとても楽しかった。みんなでクリスマスの絵を描く体験は、他文化同士触れ合って、一つの作品を作るいい機会になったと思う。ベトナムの礼儀作法や、習慣や食文化などを写真や文で詳しく伝えてくれた。こちらも紙飛行機の作り方を教えてどれだけ飛ばせるか競争したりして、文化の触れ合いが出来て、とても楽しかった。

- 大学を出てからは昨日のスコールで延期になっていた戦争証跡博物館へ行き、インドシナ戦争、ベトナム戦争について学びました。その後、フランス統治下のコロニアル様式が美しい中央郵便局と、ブックストリートを散策しました。散策の頃に雨が降ってきてしましましたが、夜のクルーズの頃には降りやんだので幸運でした。夜は「INDOCHINA QUEEN CRUISE SAIGON」に乗り込みディナークルーズで美しい夜景を堪能しました。



戦争証跡博物館には、おそらく日本では展示することもできないような写真や、枯葉剤の影響で亡くなった胎児のホルマリン漬けの写真、戦争での負傷による後遺症に苦しむ人の写真など、かなりグロテスクで見ていると血の気が引いてくるような写真がカラーやモノクロで展示してあった。ベトナム戦争や戦争自体の恐ろしさがかなり伝わった。2度と戦争は起こしてはならない。



郵便局っていうよりは駅ぐらい大きくて驚いた。昼の郵便局も綺麗だったけど、夜の郵便局がより綺麗で、昼と夜に2回見れたのが良かった。元々本が好きだから Book Street で本が並んでいる店を見るだけでも楽しかった。ベトナムに関することが書かれたしおりを買った。男子が3分500円で自分の似顔絵を描いてもらっているのが面白かった。



初めてクルーズ船で食事ができた。ご飯も美味しかった。最上階のデッキから見るベトナムの風景、夜景がとても綺麗で「日本よりも建物はすごいなー」って思った。ベトナムの音楽やダンスも見られて、とても楽しかった。



### 3日目

・本日も8時に出発し、郊外のミトーヘ。メコン川をエンジンボートで渡り、ハチミツ農園見学では、ハチミツドリンクを蜂に囲まれながら味わい、ニシキヘビを肩に乗せる勇気のある生徒もたくさんいました。ジャングルクルーズでは5人乗りの手漕ぎ船に乗り込み、住人たちが造った水路を下っていきました。



蜂とか飛んでる小さい虫が苦手だから、近くに寄ってきたときとか自分の飲み物に入ったときは軽くパニックになったけど、それも含めて面白くて楽しかったです。



ジャングルクルーズは小さな小船で川を進み、景色を楽しめてとても良かった。他の船とすれ違うときや木々の横を通り抜ける時、スリルがあってとても面白かった。

爬虫類が苦手すぎて蛇を触るかどうか迷ったけど、最終的に触ることができて良かったです。克服は無理でした。



- ・午後はホーチミンに戻り、約700ヘクタールの新都心計画エリアのトゥーティエムに移動して富士フィルムベトナムへ、フィルムメーカーから大きく転換した企業からたくさんのが学べたようです。夕食会場では生徒代表より国際理解コースの皆さんへの挨拶もありました。



自分もこういう風に生きていきたいなと思った。社長さんの考え方がすごくかっこいいと思ったし、自分も将来こういう大人になりたいと思った。また、やっぱり自分は海外と関わる仕事をしたいなど再確認することができた。



有名な富士フィルムさんについてより詳しく知ったり、ショーケースを見学させてもらったり沢山のことを学ぶことができた。社長さんの話や質疑応答では、質問の内容も返答の内容もとても凄くて学びになつた。社長さんの言っていた、「自分がやりたいことをアピールする」というのを心に留めてこれから的生活を過ごしていこうと思う。

富士フィルムの現地の日本人社員の方のお話や社長からのお話が聞けて、今後の将来について参考にしたいことがたくさんできた。



エビ料理がとても多くて、中華料理らしさもありながらベトナムっぽさもある料理だと思いました。中華料理と言っても、見たことの無い料理ばかりで、美味しかったので、よかったです。

#### 4日目

・昨日より少し早く出発してクチトンネルへ。クチトンネルは、ベトナム戦争中にベトコン（南ベトナム解放民族戦線）がアメリカ軍に対抗するため、ホーチミン近郊に建設した全長200～250kmにも及ぶ巨大な地下トンネル網のことです。年末のためか人出が非常に多く、バスの駐車場はまるでパズルゲームのような混み具合でした。昼食は市内ショッピングモールであるビンコムセンターで、自分たちで食べたいものを選んで昼食をとりました。



クチトンネルでは、当時使っていた穴の中に実際に入ることができました。狭く真っ暗だったので当時は過酷だったのだなと思いました。落とし穴の仕組みがシーソーになっており、よく考えたなと思いました。そして、戦争は過酷だったんだなと改めて実感しました。



戦争証跡博物館とはまた違ったベトナム戦争の歴史を見ることができた。博物館よりも見やすいと感じた。また、射撃場の銃声が近くで聞こえていたので、実際にベトナム戦争時にいるかのような臨場感が味わえた。



ビンコムセンターでの昼食では、まだ食べられていなかった、ベトナムの有名な料理である「バインミー」を選んで食べました。私たちが入ったお店の店員さんは、私たちが日本人だとわかると、英語でコミュニケーションを取ったり、翻訳機で確認してくれたりしてとても親切でした。バインミーも少し辛かったけれど、とても美味しかったです。

・昼食後は、現地の大学生と英語で交流をするB&S プログラムです。市内の名所であるホーチミン像付近で現地の学生と合流し、市内観光に出かけていきました。交流後は、イオンモールで夕食と最後のお土産購入を済ませて空港へ向かいました。道中で、4日間お世話になった現地ガイドのチュンさんに代表生徒からお礼の挨拶をし、バス内で写真撮影をして帰国の途に就きました。

B&S プログラムでは、現地の大学生の方とすごく仲良くなることができただけでなく、同じ班だった人たちともより仲を深めることができた。英語でコミュニケーションをとることができたため、話し言葉や会話のはじめなどの軽い返事の仕方など、普段詳しく学ぶことのない英語をしっかり学んで吸収することができた。



英語だけでコミュニケーションをとるのが難しかったけどとてもいい経験だったし、おすすめの写真スポットで沢山写真を撮ることができた。

ベトナムに行き、現地の人々と交流し、実際に建物や街の雰囲気を感じることで得たものは、絶対に教科書やネットからは得られないもので、貴重な経験をすることが出来ました。最初、ベトナムと聞いた時はとても異国なイメージがあり、不安が沢山ありました。

実際にやってみると、想像以上にバイクが行き交っていたり、調べただけではわからなかった異国感あふれる料理が出てきたり、実際に交流することで感じることが出来た現地の人々の優しさを感じることができたり、思っていた以上に良い場所で、良い経験をすることができました。現地の大学生とベトナム語で交流することは難しかったけれど、英語で会話をしてみることで、相手の文化を知ることができ、一緒に盛り上がることができました。これをきっかけにこれからもっと異文化理解ができる自分になれるのかもしれませんと感じました。研修で知ることのできたベトナムはほんの一部だけれど、以前より、ベトナムという国についての理解を深めることができました。

